

シンガポールロゼッタネット グローバルパートナーコンファレンス (2004年3月30-31日 シンガポール E-Business Connections)

2004年3月30-31日、シンガポールのラッフルズシティコンファレンスセンターにて「E-Business Connections」と称してロゼッタネットグローバルパートナーコンファレンスが開催された。

本コンファレンスには、日本のロゼッタネット関係者を始め、世界各国から約500名が参加し、非常に熱の入ったコンファレンスとなった。

03年はマレーシア政府及びペナン州政府の後援により、アラランプールで開催されたが、04年ロゼッタネットグローバルパートナーコンファレンスはシンガポール政府IDA (Infocom Development Association) の全面的な後援で開催された。

シンガポール政府情報・通信・芸術大臣Dr.L.B.Yang氏による開催挨拶では「シンガポールはアジア地域での物流、金流、情報流通のハブとしての機能を強化していく。その中心に、RN標準等のB2B標準をE-Connectionとして据え、シンガポールの経済発展、貿易立国の根幹とする」と、電子商取引とIT化への取り組みを国家戦略として強力に推進していくことをアピールしていた。

又、同国はロゼッタネットの新しいカウンシルとして誕生した「ロジスティックカウンシル」へIDAより、Executive Directorを派遣し、全面的な支援を表明している。このことはDHL、UPS、エクセル等のグローバルな物流大手企業と協調して、ハブ機能強化を推進していこうとするシンガポールの戦略が見えてくる。

今コンファレンスのトピックスとしてロゼッタネット・オーストラリア設立覚書調印式が挙げられる。ロゼッタネットオーストラリアは、

その受入母体がEAN-オーストラリアで、会場に多くのEAN関係者が出席していた。

ロゼッタネットオーストラリアの設立経緯はUCCとロゼッタネットの合併による具体的な効果例として非常に興味深いものであり、今後の地域組織拡大や異業種間の交流の相乗効果に大きく期待ができる事項である。

初日のキーノートスピーチには田谷ロゼッタネット代表(ソニー)によるRNJの活動実績の紹介があったが、OMJ等の成功事例や今後のEIMの推進、IOFなどのロゼッタネット標準普及活動に会場より大きな賞賛が送られた。

今ビジネス市場で最も注目されている中国は、中国科学技術省Dr.Zhiwen Zhang氏(RN中国代表)によって紹介された。RN中国は発足したばかりで、まだ、具体的な活動実績のこれからだが、国際標準の策定を国家戦略として位置づけ、情報基盤強化策の一つにロゼッタネット標準が採用された事はアジア地域だけに留まらず、世界的にインパクトのある事項と思われる。

電子通関申告のモデルとして、マレーシア-フィリピン間でのライブデモが実施され、現実の姿として、東南アジア圏での政府後援によるIT化推進に拍車がかかっていることを目の当たりにした。

このようにアジア各国では行政府による電子政府や国際間電子商取引などの政策にロゼッタネット標準などの幾つかの国際標準を利用して民間企業と協調して実施している。国際競争力強化の戦略として、着実にIT化、その為のインフラ整備、規制緩和、体制作りに邁進している熱気を感じる。